

平成31年4月24日（水）  
利根川水系渇水対策連絡協議会  
（事務局：関東地方整備局）

記者発表資料

平成31（2019）年度  
第1回利根川水系渇水対策連絡協議会  
幹事会（春季定例会）の開催結果について

1. 開催状況

日時：平成31年4月23日（火） 10:30～

場所：さいたま新都心合同庁舎2号館5階 501

協議会構成：国土交通省関東地方整備局、経済産業省関東経済産業局、  
農林水産省関東農政局、東京都、千葉県、埼玉県、茨城県、  
群馬県、栃木県、独立行政法人水資源機構

協議会の目的：利根川水系の渇水時における円滑な水需給の調整を図る。

2. 開催結果

別紙のとおり

発表記者クラブ

埼玉県政記者クラブ、竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、  
東京都庁記者クラブ、千葉県政記者会、茨城県政記者クラブ、  
栃木県政記者クラブ、刀水クラブ・テレビ記者会、水資源記者クラブ

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 河川部 河川環境課	住所 〒330-9724 埼玉県さいたま市中央区新都心2-1 さいたま新都心合同庁舎2号館
河川環境課長 吉川 宏治（内線）3651	電話 （代表） 048-601-3151
建設専門官 土屋 英樹（内線）3652	
水政課	
水政調整官 石川 喜則（内線）3515	
水政課長 福島 信之（内線）3551	
建設専門官 高橋 浩昭（内線）3557	

## 現状と今後の対応

### (1) 現状

- 降水量（栗橋地点上流域平均）の状況
  - 1月の降水量は26mm（平均値に対する割合59%）
  - 2月の降水量は17mm（平均値に対する割合36%）
  - 3月の降水量は75mm（平均値に対する割合112%）
  - 4月18日までの累加降水量は32mm（4月の累加降水量の平均値は90mm）
- 積雪の状況（4月19日9時現在）
  - 藤原ダム地点 積雪深0cm（4月12日に消雪）
  - 尾瀬沼地点 積雪深21.1cm（平均値に対する割合113%）
- 利根川上流8ダムの貯水状況（4月19日0時現在）
  - 貯水量は同時期の平均貯水量を下回っています。
  - 貯水量2億1,182万m<sup>3</sup>、貯水率46%、平均値に対する割合61%

### (2) 今後の見通し

- 気象庁発表の気象情報（1ヶ月予報；4月13日から5月12日までの天候見通し）によると、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」の確率が40%となっています。
- 利根川上流5ダム（矢木沢、奈良俣、藤原、相俣、菌原）は、3月下旬から気温が平年より低い影響で融雪によるダム流入が平年と比べ少ない状況となっていますが、気温上昇に伴う融雪によりダムへの流入量が増加し、貯水量が増加する見込みです。
- 今後は水需要の多い時期になることから、降雨状況によっては、利根川上流8ダムの貯水量が不足することも考えられます。
- 鬼怒川上流4ダムの貯水量は同時期の平均貯水量を下回っており、今後、下流の農業用水等水需要に対して必要な水量を確保するため、降雨状況によっては、貯水量が不足することも考えられます。

### (3) 今後の対応

- 利根川上流8ダム、鬼怒川上流4ダム等は、上流域の融雪状況や降雨、農業用水や都市用水の水利用を十分考慮して、既存施設等を広域的かつ効果的に活用し、きめ細かい運用を行っていきます。
- ダム群の貯水量の状況や積雪及び降水量の状況等の情報提供を引き続き、積極的に行っていきます。
- 利根川水系渇水対策連絡協議会としては、必要に応じ幅広い広報活動を通じて節水の協力を要請していくとともに、取水制限等の調整が必要になった場合には、機動的に行っていきます。

平成31年度 第1回利根川水系湯水対策  
連絡協議会幹事会（春季定例会）

## 利根川上流ダム群等の現状と今後の見通しについて



矢木沢ダム上流部（平成31年4月18日撮影）

平成31年4月23日

関東地方整備局

# 1. 利根川上流8ダム等の現状

## (1) 利根川

### 1) 栗橋地点上流域平均降水量の状況（平成31年4月18日までの降水量）

《平成30年》

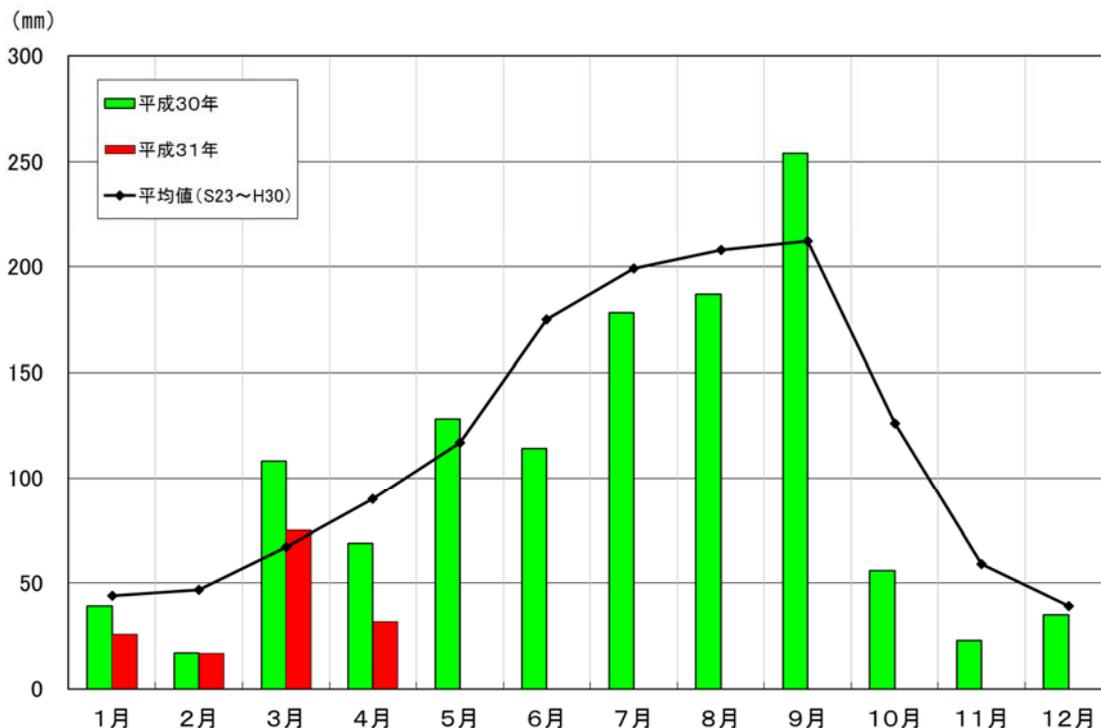
9月の降水量は秋雨前線や台風の影響により254mm（平均値212mm）と平年を上回りましたが、10月、11月は平均値の4割程度と極端な少雨でした。

《平成31年》

1月、2月は平均値を下回り、特に2月は、17mmで平均値の4割程度の降水量でした。

なお、4月の降水量は、18日までの累加で32mmとなっています。（4月の降水量の平均値は90mm）

（図－1、表－1参照）



図－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量

表－1 利根川栗橋地点上流域平均降水量（平成31年4月18日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	22	33	62	14	89	91	204	186	252	73	39	26	1,091	利根川夏湯水
平成2年	31	66	71	119	58	74	118	193	326	143	183	31	1,413	〃
平成6年	27	50	52	23	139	107	104	153	346	87	26	29	1,143	〃
平成8年	26	35	68	47	98	117	155	78	217	80	55	23	999	利根川冬夏湯水
平成9年	33	33	59	74	179	173	170	167	206	14	94	20	1,222	利根川冬湯水
平成13年	79	35	75	23	136	176	116	366	321	173	46	23	1,569	利根川夏湯水
平成19年	34	21	38	67	126	159	262	116	380	137	27	53	1,420	(少雪年)
平成24年	43	57	115	98	206	192	190	87	221	85	55	47	1,395	利根川夏湯水
平成25年	43	38	20	134	46	168	152	153	244	224	24	48	1,294	〃
平成28年	69	36	57	104	56	156	134	328	312	55	68	56	1,431	〃
平成30年	39	17	108	69	128	114	178	187	254	56	23	35	1,208	
平均値(S23~H30)	44	47	67	90	117	175	199	208	212	126	59	39	1,383	
平成31年	26	17	75	32									150	
平均値に対する割合(%)	59	36	112	36									11	

※：利根川取水制限実施月（一時緩和含む） ※栗橋上流域面積:8,588km<sup>2</sup>

2) 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の雪の状況（平成30年～31年 冬期）

《積雪状況》

藤原ダム地点は11月1日に初冠雪となり、翌年1月初旬、下旬にまとまった降雪があり、1月29日に今冬期の最大積雪深140cmを記録しました。しかし、2月以降は、まとまった降雪がなく、平均を下回る積雪深で推移しました。

一方、尾瀬沼地点は、12月9日初冠雪となり、2月上旬から3月下旬までは、平均を下回る積雪深で推移しましたが、4月上旬にまとまった降雪があり、4月3日に今冬期の最大積雪深266cmを記録し、平均を若干上回る積雪深で推移しています。

《融雪状況》

積雪深からみると、藤原ダム地点では2月中旬から下がりだし、4月12日に消雪しました。

一方、尾瀬沼地点では平均的には4月から積雪深が減少し、融雪が始まりますが、3月下旬から気温が平年より低い影響で、融雪が遅くなっています。（表-2、図-2参照）

表-2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深

観測所名	時 点	積雪深	今期最大積雪深 (発生日)
藤原ダム (標高667m)	平成31年4月19日9時現在	0cm	140cm(1月29日)
	S34～H30の4月第3半旬末平均値	2cm	
尾瀬沼 (標高1666m)	平成31年4月19日9時現在	211cm	266cm(4月3日)
	S30～H30の4月第3半旬末平均値	186cm	

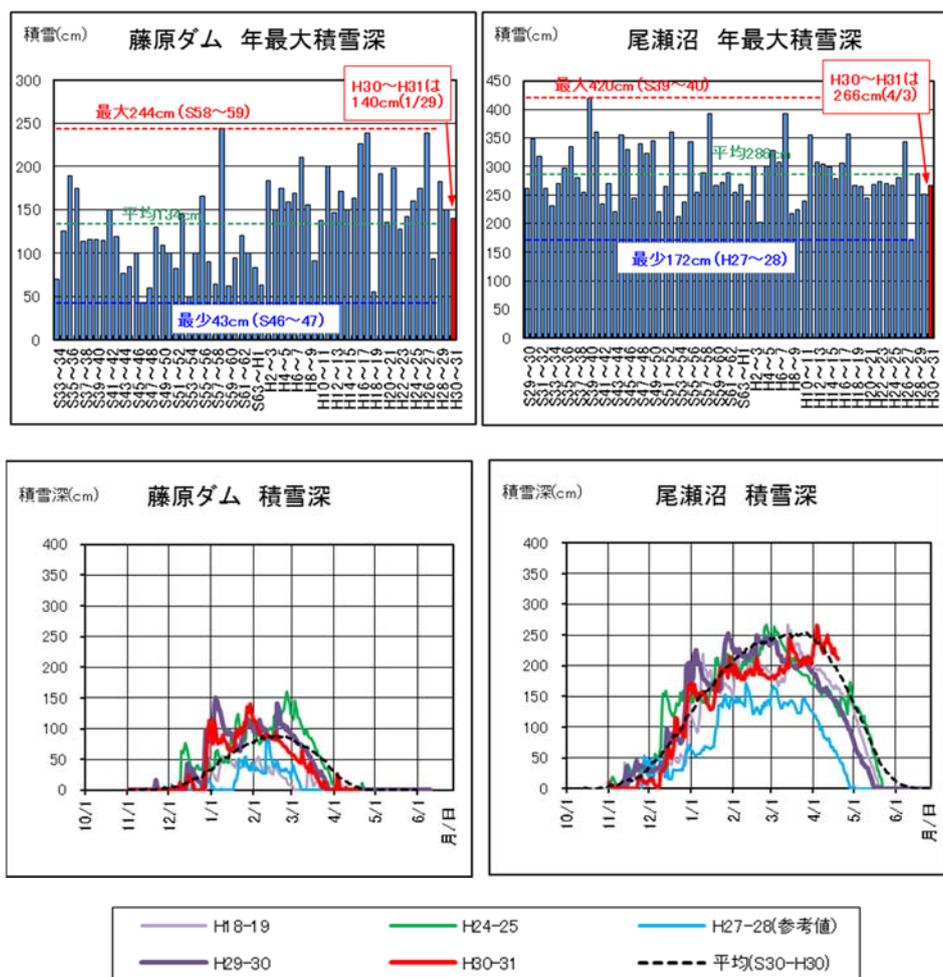


図-2 藤原ダム地点及び尾瀬沼地点の積雪深図

(平成31年4月15日9時現在)

※過去及び平均のデータは半旬末の値

### 3) 各観測所の積雪の状況

奥利根流域における積雪観測所の平成31年4月15日9時現在の積雪状況は、4月上旬の降雪の影響で、同時期の平均積雪深を上回っている観測所が多く、残雪が多い状況となっています。

(図-3、図-4 参照)

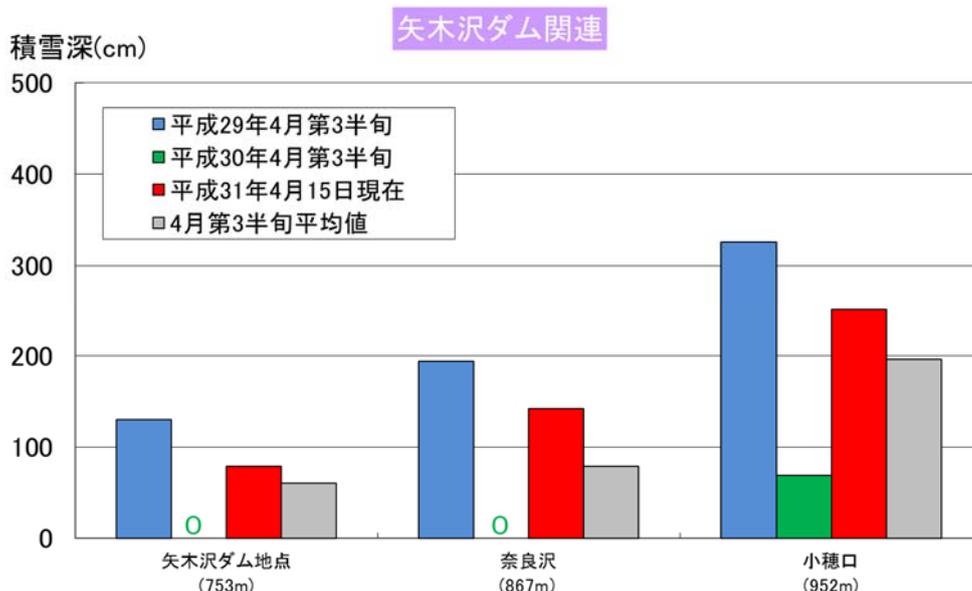
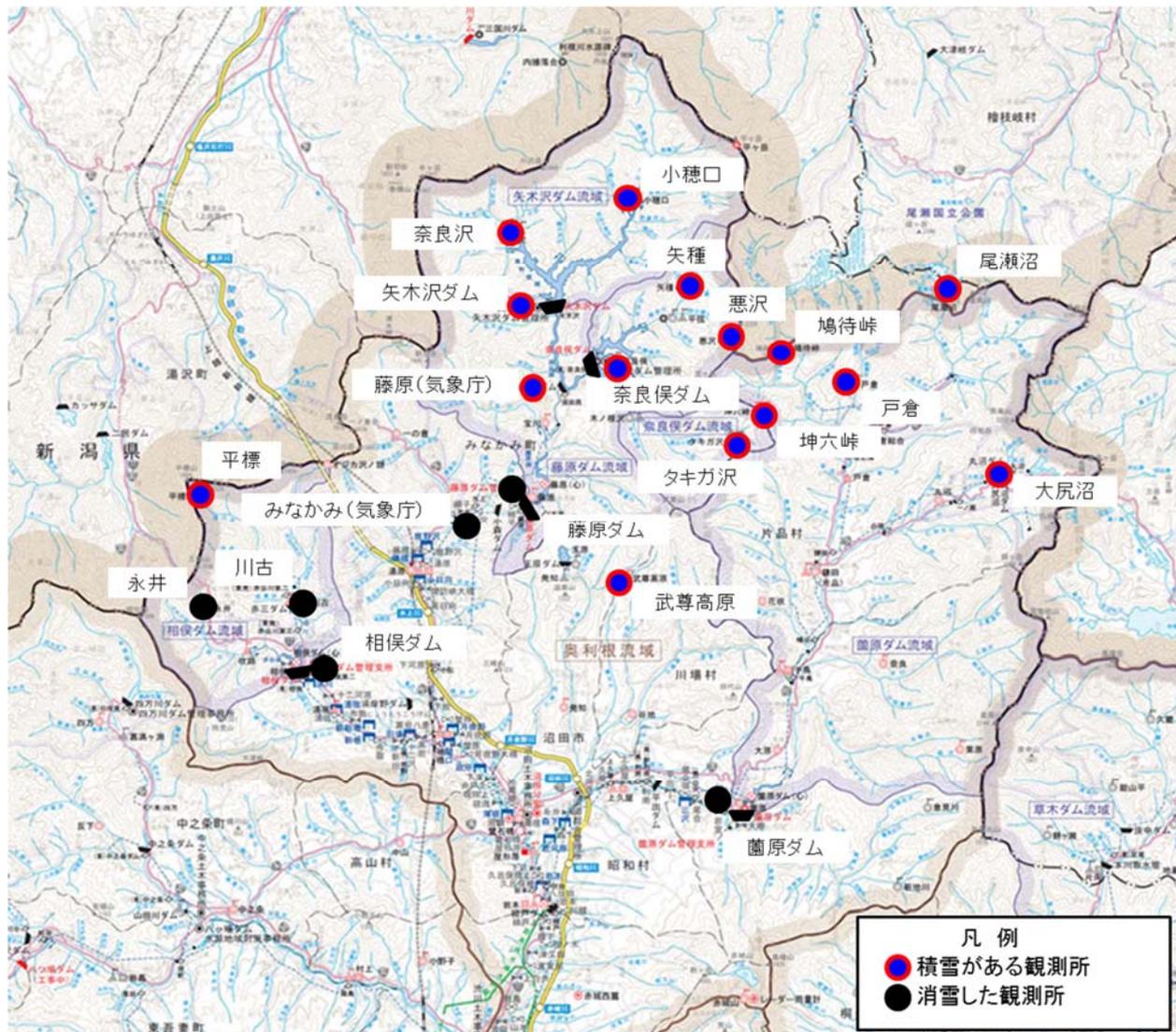
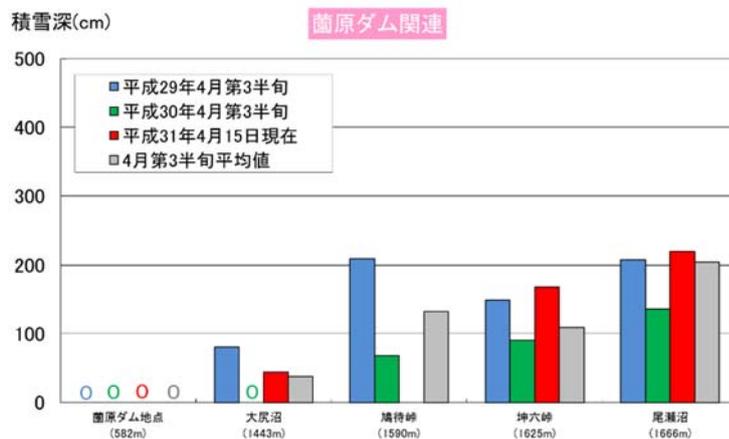
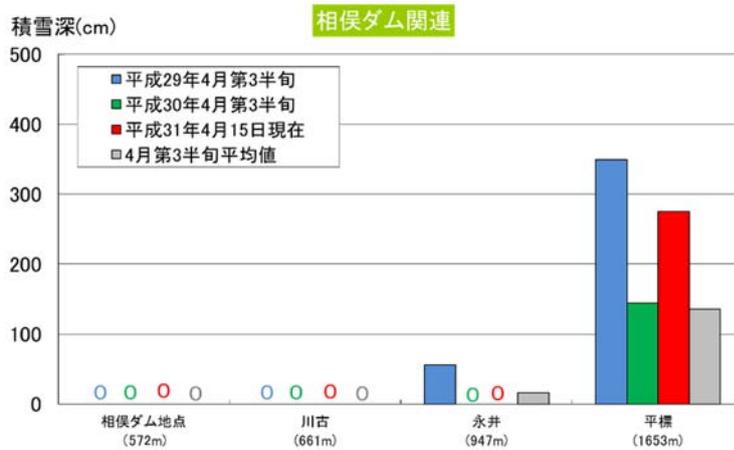
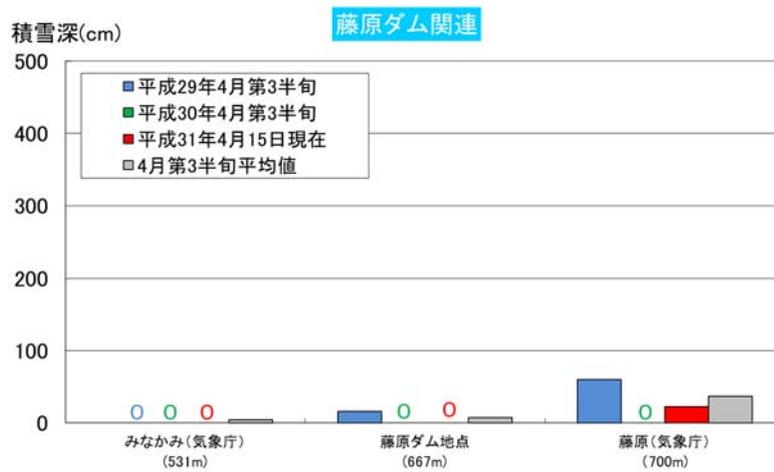
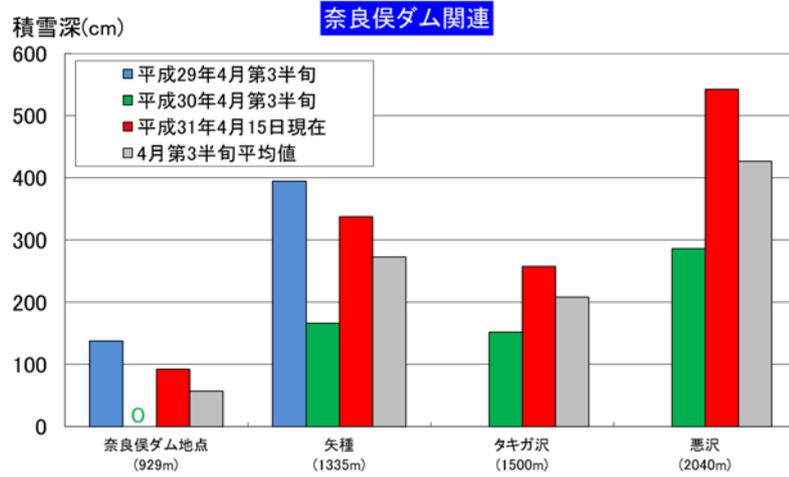


図-4 各観測所の積雪深状況 (1) (平成31年4月19日現在)



図一 4 各観測所の積雪深状況 (2) (平成31年4月15日現在)

4) 利根川上流8ダムの貯水状況等 (平成31年4月19日0時現在)

《平成30年》

出水期以降の10月は、台風24号、その後のまとまった降雨があり、利根川上流ダム群は、10月8日に4億m<sup>3</sup>を超える貯水量まで回復しましたが、利根川本川及び各支川の水需要、10月、11月の少雨を受け、補給を継続しました。

《平成31年》

ダム補給は2月まで続き、3月の降水量などの影響もあり、貯留に転じ、4月19日0時現在の利根川上流8ダムの合計貯水量は、2億1,182万m<sup>3</sup>、貯水率は46% (貯水量の平均値 (平成4年～平成30年) に対する割合は61%) となっています。(表-3、図-5参照)

なお、奥利根5ダムの合計貯水量は9,795万m<sup>3</sup>、貯水率は37%となっています。

表-3 利根川上流8ダム貯水量 (平成31年4月19日0時現在)

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
矢木沢ダム	11,550	2,865	25	-230
奈良俣ダム	8,500	4,008	47	-104
藤原ダム	3,101	1,584	51	-25
相俣ダム	2,000	1,113	56	-77
藪原ダム	1,322	225	17	-23
5ダム合計	26,473	9,795	37	-459
下久保ダム	12,000	7,585	63	6
草木ダム	5,050	3,637	72	-1
渡良瀬貯水池	2,640	165	6	0
8ダム合計	46,163	21,182	46	61
8ダム合計の平均値 (平成4年～平成30年)		34,898	(平均値に対する割合 61%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。(値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。)

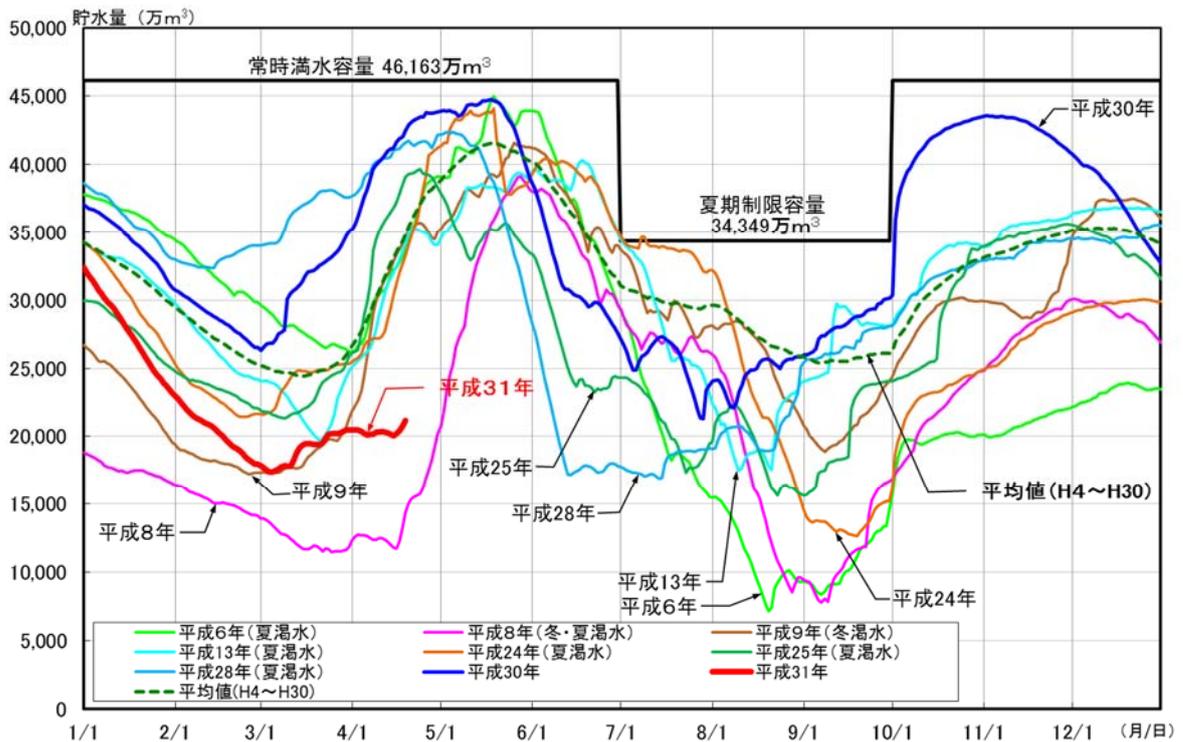


図-5 利根川上流8ダム貯水容量図 (平成31年4月19日0時現在)

### 5) 北千葉導水路の運用状況

年明けからの少雨を受け、江戸川の流況が悪化したため、1月上旬より北千葉導水路により利根川から江戸川への導水を開始し、4月までに最大14.5m<sup>3</sup>/s、総量約8,532万m<sup>3</sup>（88日間）の導水を行い、4月に入っても継続して導水を実施しています。（図-6参照）

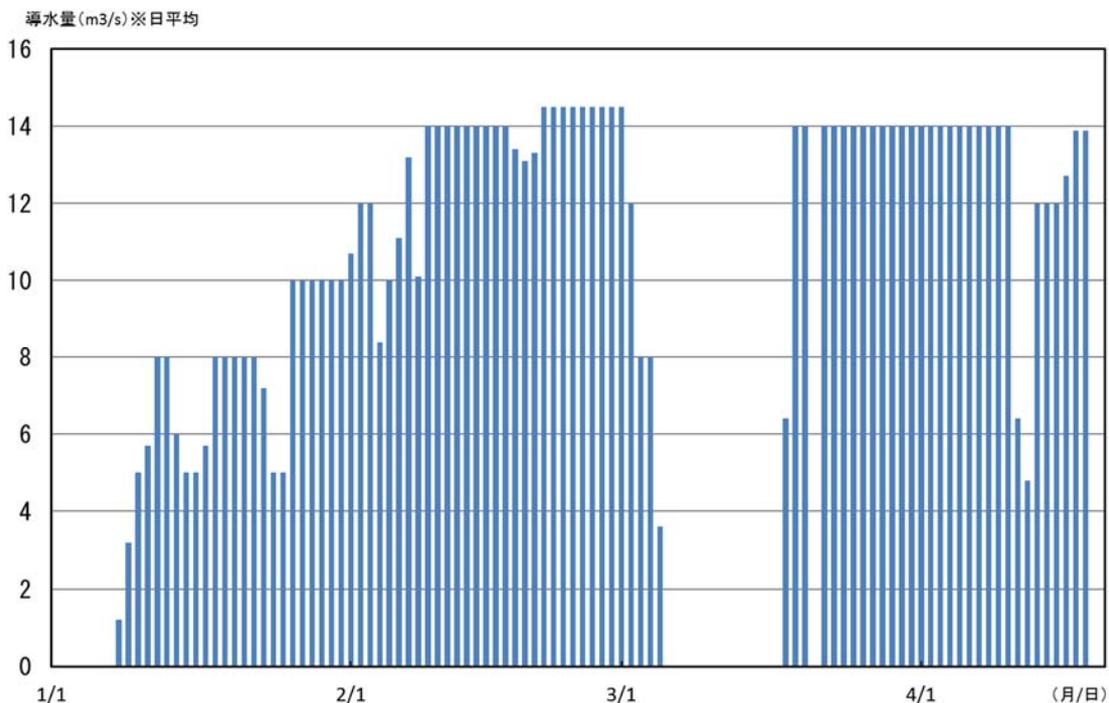


図-6 平成31年北千葉導水路の運用状況（平成31年4月18日まで）

### 6) 渡良瀬貯水池の現状

渡良瀬貯水池は水質改善のため、平成9年から利根川の流況を見ながら「干し上げ」を行っています。平成31年の干し上げについては、平成30年12月12日より下流に向け補給しつつ水位を下げ、干し上げを実施しました。その後、3月26日より貯留を開始し、平成31年4月19日0時現在の貯水量は、165万m<sup>3</sup>、貯水率は6%（貯水量の平均値（平成4年～平成30年）に対する割合は10%）となっています。（図-7）

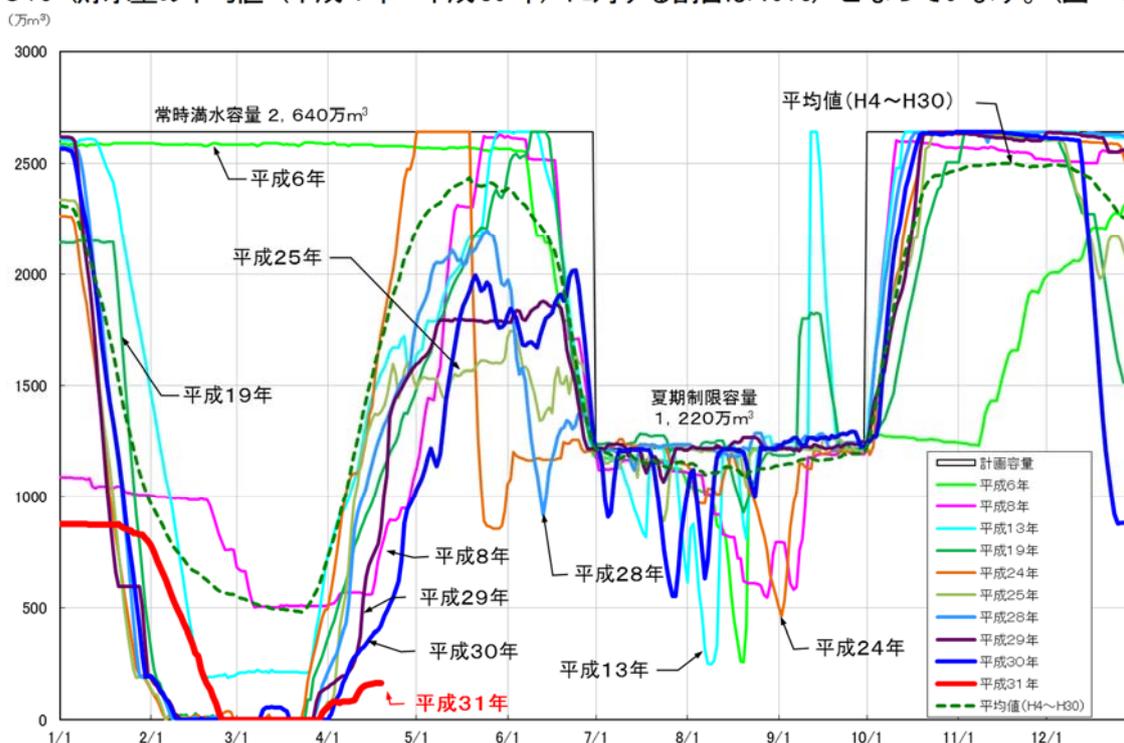


図-7 渡良瀬貯水池貯水量図（平成31年4月19日0時現在）

(2) 鬼怒川

1) 佐貫地点上流域平均降水量の状況 (平成31年4月18日までの降水量)

《平成30年》

10月、11月は、平均値を下回り、特に11月の降水量は、31mmと平均値の4割程度となっています。

《平成31年》

平成31年に入り、1月、2月は平均値を大きく下回り、3月は平均値並みの降雨がありました。

4月の降水量は18日までの累加で28mmとなっています。(4月の降水量の平均値は102mm)

(図-8、表-4参照)

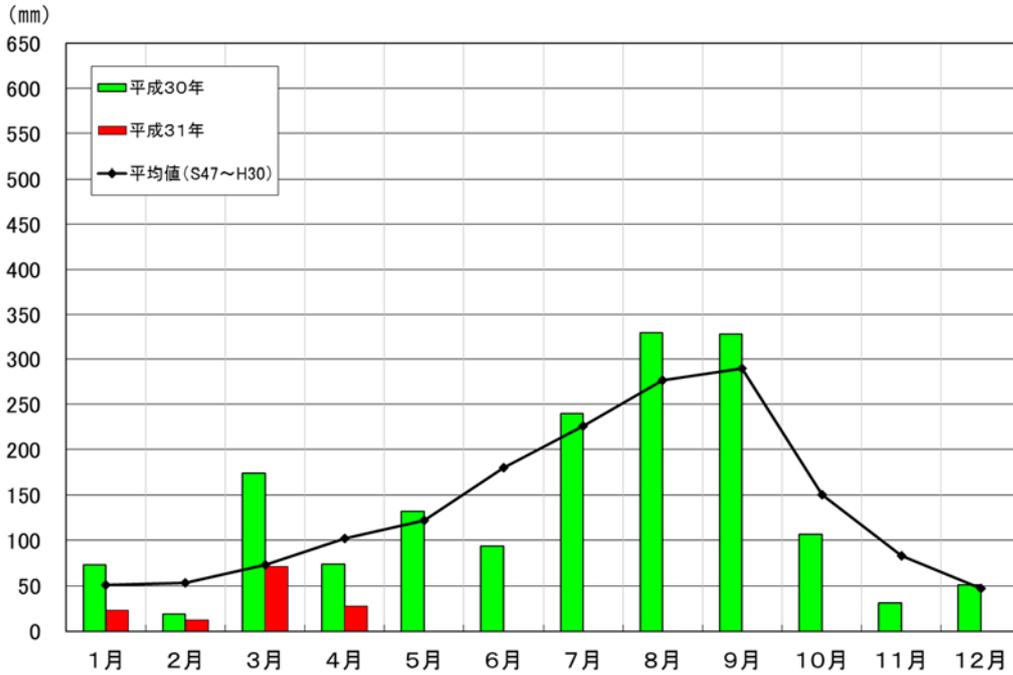


図-8 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量

表-4 鬼怒川佐貫地点上流域平均降水量[mm] (平成31年4月19日まで)

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	21	34	127	21	121	134	186	156	321	121	38	21	1,301	
平成2年	35	89	79	164	53	111	109	338	394	195	220	66	1,853	
平成4年	42	15	129	199	182	234	166	152	61	217	42	54	1,493	
平成5年	91	84	20	17	89	226	321	307	280	112	209	52	1,808	
平成6年	15	118	77	21	126	103	159	218	551	122	25	48	1,583	
平成7年	62	14	170	99	216	337	167	113	177	57	65	68	1,545	
平成8年	46	69	79	67	113	103	176	109	211	66	65	36	1,140	
平成9年	46	55	74	52	145	272	234	114	274	17	215	27	1,525	
平成13年	56	13	34	13	116	185	147	484	610	225	62	35	1,980	
平成24年	40	47	101	111	314	276	227	109	354	113	71	75	1,838	
平成25年	45	35	14	147	46	171	177	172	411	301	29	66	1,614	
平成28年	66	35	31	109	63	138	94	401	306	49	53	47	1,392	
平成30年	73	19	174	74	132	94	240	330	328	107	31	51	1,653	
平均値 (S47~H30)	51	53	73	102	122	180	226	276	289	150	83	47	1,652	
平成31年	23	12	71	28									134	
平均値に対する割合 (%)	45	23	97	27									8	

※佐貫地点上流域面積：940km<sup>2</sup>

2) 鬼怒川上流4ダムの貯水状況等（平成31年4月19日0時現在）

《平成30年》

10月初旬の降水量により貯水量が約2億 $m^3$ （貯水率79%）まで貯留しましたが、その後の少雨の影響から補給を実施しました。

《平成31年》

平成31年4月19日0時の貯水量は2億1,785万 $m^3$ 、貯水率86%（貯水量の平均値（平成26年～平成27年）に対する割合は94%）となっています。（表-5、図-9参照）

表-5 鬼怒川上流4ダム貯水量

平成31年4月19日0時現在				
ダム名	有効容量 (万 $m^3$ )	貯水量 (万 $m^3$ )	貯水率 (%)	前日補給量 (万 $m^3$ /日)
五十里ダム	3,200	2,774	87	31
川俣ダム	7,310	6,814	93	118
川治ダム	7,600	5,979	79	7
湯西川ダム	7,200	6,218	86	-25
4ダム合計	25,310	21,785	86	131
4ダム合計の平均値 (平成26年～平成27年)		23,139	(平均値に対する割合 94%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差。（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

※データは湯西川ダムが完成して4ダムで運用している平成25年から集計し、平均値は渇水年であった平成25年、平成28年、平成29年及び平成30年は除いている。

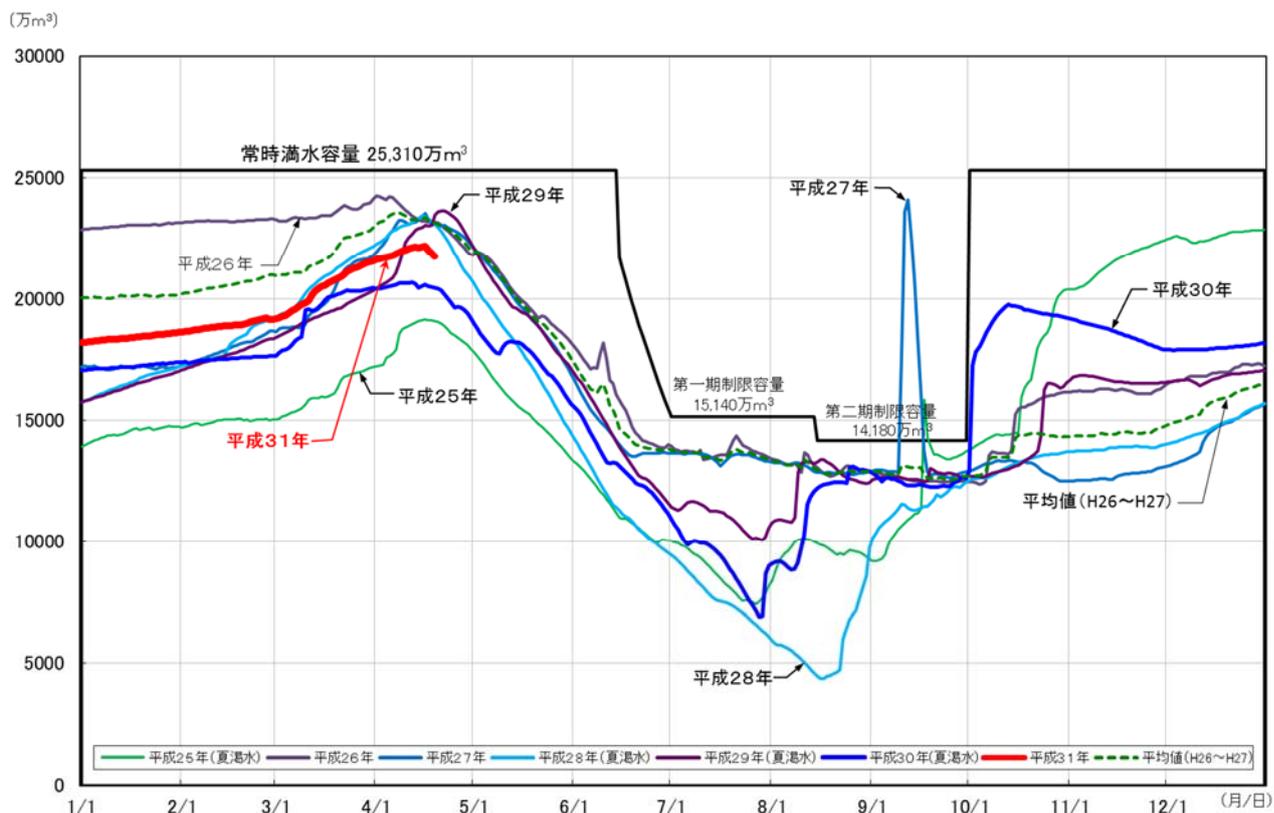


図-9 鬼怒川上流4ダム貯水容量図（平成31年4月19日0時現在）

### (3) 荒川水系

#### 1) 秋ヶ瀬地点上流域平均降水量の状況（平成31年4月18日までの降水量）

《平成30年》

9月の降水量は、前線性降雨や台風の影響で340mmと平均値より105mm多い降水量となりましたが、10月、11月は平均を大きく下回る少雨となり、特に10月の降水量は、平均値の3割程度となりました。

《平成31年》

平成31年に入ってから、1月、2月は平均値を下回りましたが、3月は平均値を大きく上回る降雨がありました。

なお、4月の降水量は、18日までの累加で28mmとなっています。（4月の月間平均値は95mm）

（図-10、表-7参照）

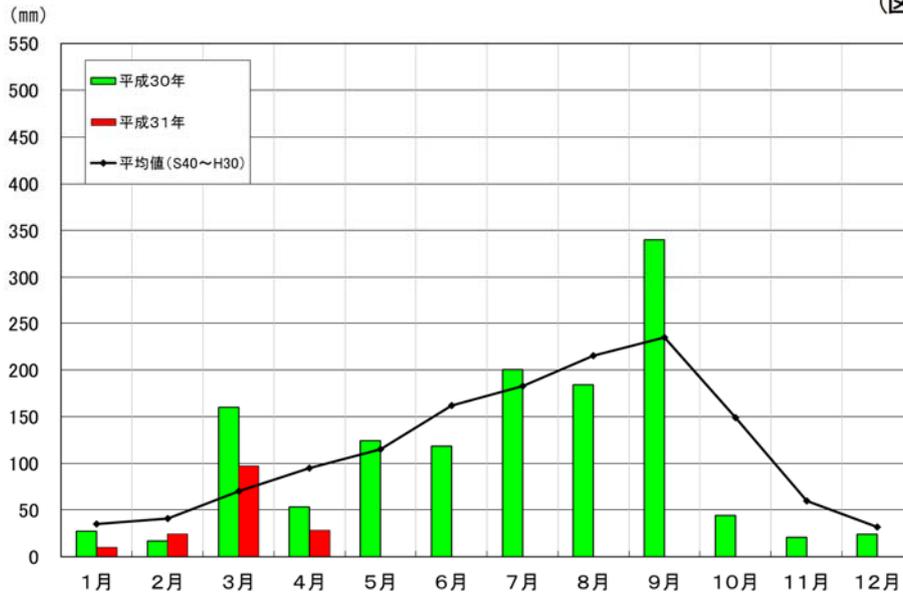


図-10 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量

表-7 荒川秋ヶ瀬地点上流域平均降水量（平成31年4月18日まで）

単位 (mm)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	摘要
昭和62年	16	29	66	8	66	88	146	103	280	91	46	36	975	利根川・荒川夏濁水
平成2年	22	67	83	138	48	55	77	228	473	134	301	31	1,657	利根川・荒川夏濁水
平成4年	26	15	118	136	117	250	87	177	63	285	52	29	1,355	荒川夏濁水
平成5年	82	34	37	44	76	186	275	276	204	112	113	25	1,464	荒川夏濁水
平成6年	42	44	64	25	111	103	152	142	344	119	21	24	1,191	利根川・荒川夏濁水
平成7年	24	25	111	44	129	239	177	109	180	73	24	0	1,135	荒川夏濁水
平成8年	1	22	55	62	80	47	204	32	314	74	57	17	965	利根川・荒川冬夏濁水
平成9年	21	13	57	70	187	168	148	72	204	7	87	21	1,055	利根川・荒川冬濁水
平成13年	98	17	98	30	179	120	69	279	444	247	67	9	1,657	利根川夏濁水
平成24年	36	54	93	86	257	217	102	65	245	93	54	33	1,335	利根川夏濁水
平成25年	35	18	37	152	36	172	94	77	238	327	17	46	1,249	利根川夏濁水
平成28年	75	53	74	72	44	119	90	462	247	31	87	60	1,414	
平成29年	24	10	73	67	67	70	218	263	138	488	13	7	1,437	荒川夏濁水
平成30年	27	17	160	53	124	118	200	184	340	44	21	24	1,312	
平均値 (S40-H30)	35	41	70	95	115	162	183	215	235	149	60	32	1,392	
平成31年	10	24	97	28									159	
平均値に対する割合 (%)	29	59	139	29									12	

※ ■ : 荒川取水制限実施月（一時緩和含む） 秋ヶ瀬地点上流域面積: 2.021km<sup>2</sup>

2) 荒川4ダムの貯水状況等（平成31年4月19日0時現在）

《平成30年》

5月17日に約1億2,000万m<sup>3</sup>（貯水率83%）の貯水量となり、その後、洪水調節容量の確保とともに補給を行い、10月以降は約8,700万m<sup>3</sup>の貯水量で推移しました。

《平成31年》

平成31年の1月、2月の少雨を受け、補給を開始しましたが、3月の降雨を受け、平成31年4月19日0時の貯水量は9,821万m<sup>3</sup>、貯水率68%（貯水量の平均値（平成22年～平成30年）に対する割合は101%）となっています。（表－8、図－11参照）

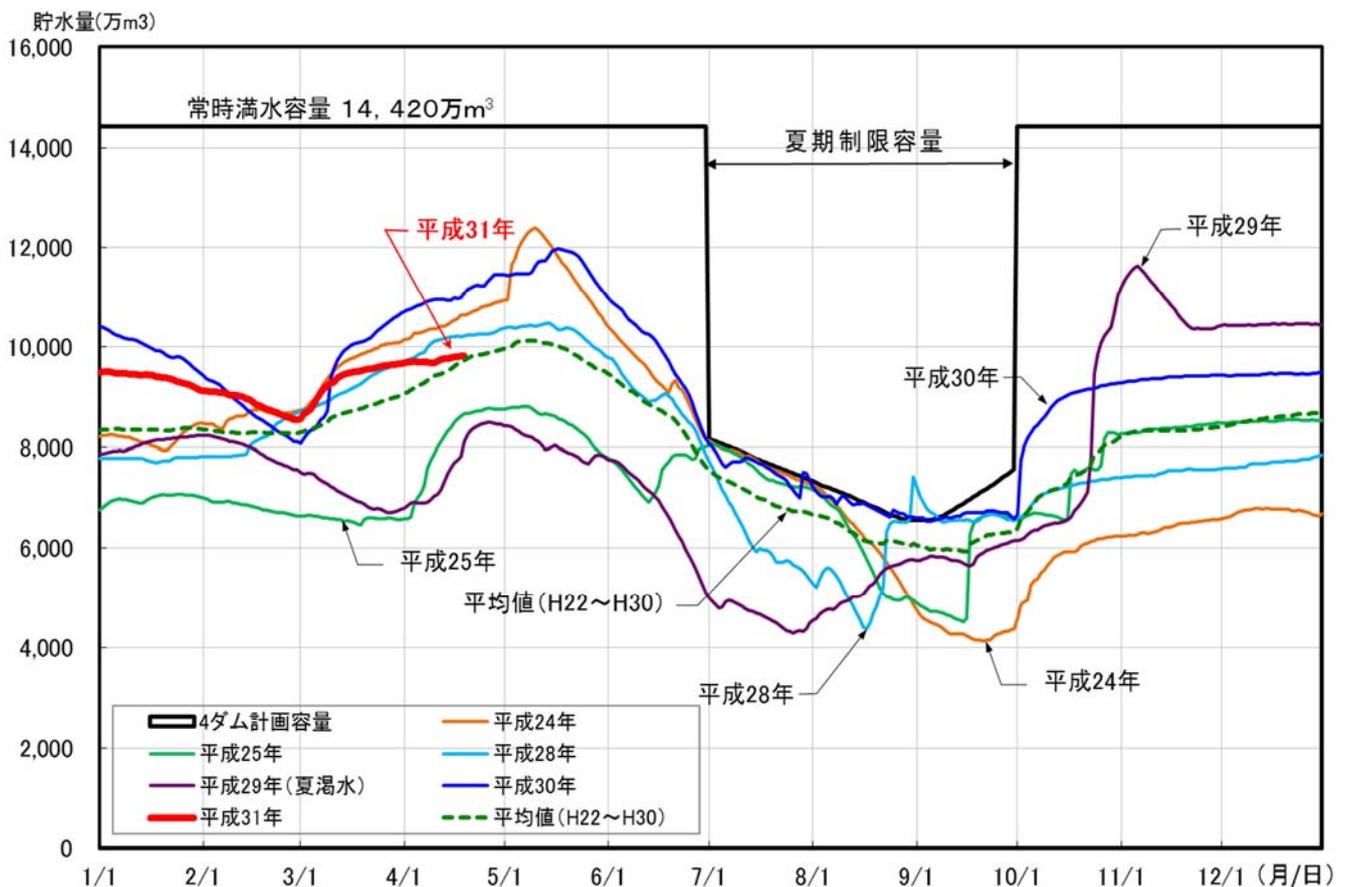
表－8 荒川4ダム貯水量（平成31年4月19日0時現在）

ダム名	有効容量 (万m <sup>3</sup> )	貯水量 (万m <sup>3</sup> )	貯水率 (%)	前日補給量 (万m <sup>3</sup> /日)
二瀬ダム	2,000	1,067	53	-13
滝沢ダム	5,800	3,716	64	-1
浦山ダム	5,600	4,035	72	2
荒川貯水池	1,020	1,003	98	11
4ダム合計	14,420	9,821	68	-1
4ダム合計の平均値 (平成22年～平成30年)		9,749	(平均値に対する割合 101%)	

※有効容量は、常時満水容量

※貯水率は、常時満水容量に対する貯水量の割合

※前日補給量とは、前日の貯水量と本日の貯水量の差（値が負の場合は、放流量より流入量が多く、ダムに水を貯留している状況です。値が正の場合は、流入量より放流量が多く、ダムに貯留した水を流している状況です。）

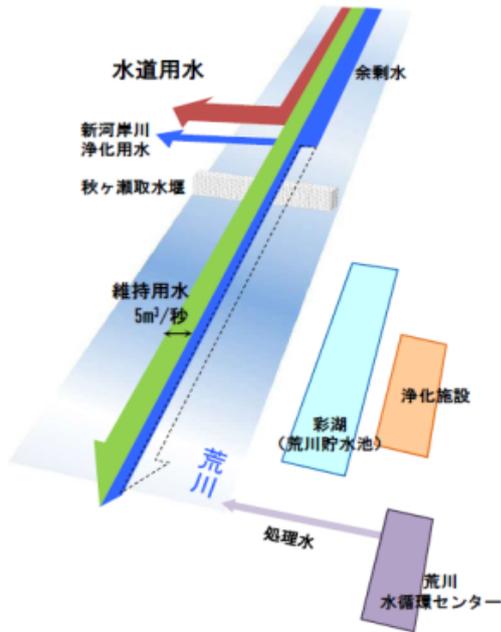


図－11 荒川4ダム貯水量図（平成31年4月19日0時現在）

### 3) 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

#### 荒川本川流量で水道用水が取水できるとき

- ・堰上流で必要な水量を取水します。
- ・余剰水は堰下流へ放流するとともに、新河岸川への浄化用水として利用します。
- ・彩湖の貯水量が少ない場合には彩湖に取水することもあります。



#### 荒川本川流量で水が足りないとき

- 水道用水を確保するため、
- ・彩湖(荒川貯水池)から堰の上流に補給します。
  - ・下水処理水を浄化施設に導水して浄化し、堰の下流に放流します。これにより、秋ヶ瀬取水堰は下流への放流量を減らすことが可能となり、結果として堰上流で水道用水の取水が可能となります。

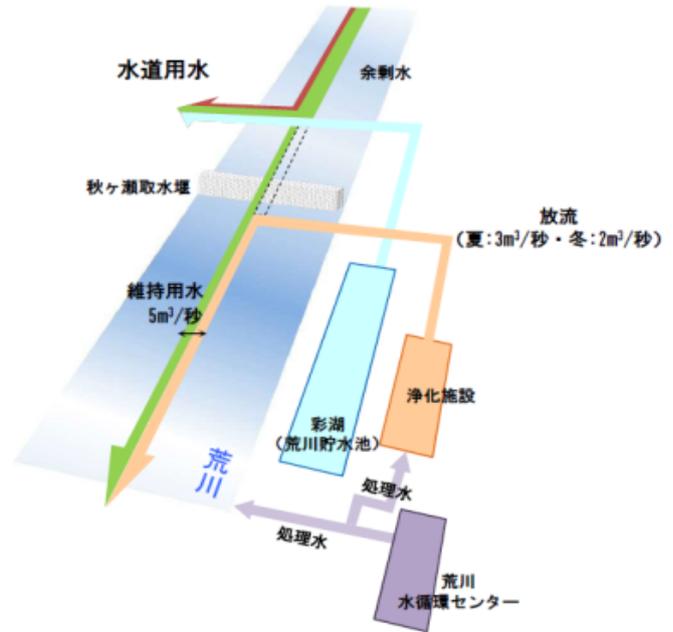


図-12 荒川貯水池及び浄化施設による利水補給

平成31年1月11日から4月18日までに約663万 $\text{m}^3$  (42日間) の補給をしています。(図-13 参照)

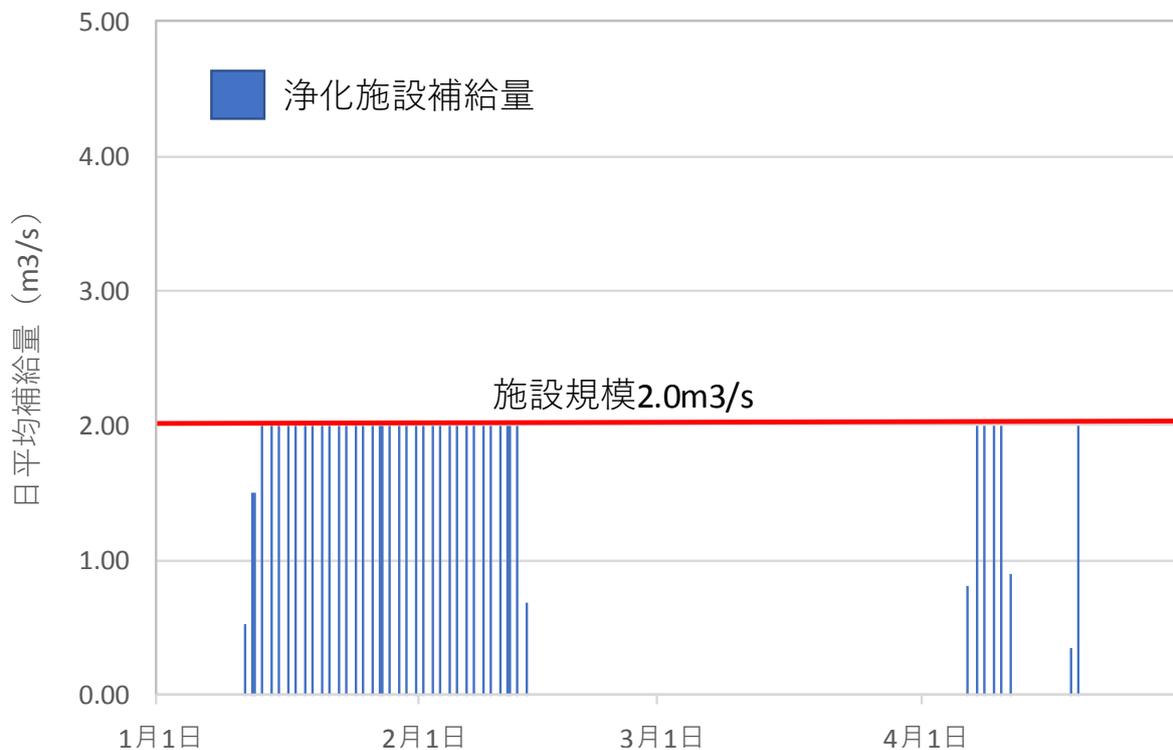


図-13 荒川第一調節池浄化施設の運用状況

#### (4) 多摩川水系

##### 1) 小河内ダム地点上流域平均降水量の状況 (平成31年4月18日までの降水量)

小河内ダム地点上流域平均降水量の平成31年4月の降水量は、18日までの累加で36mm(4月の降水量の平均値は110mm)となっています。(図-14参照)

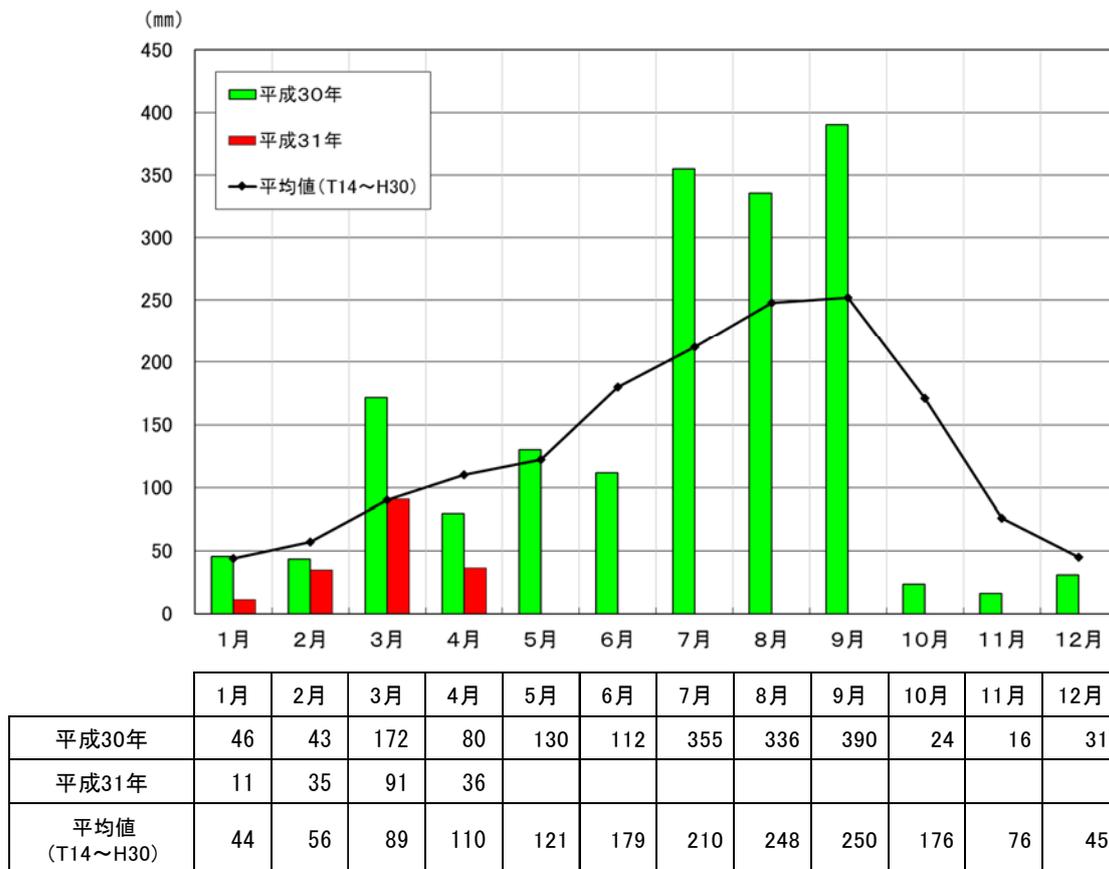


図-14 多摩川小河内ダム地点上流域平均降水量 (平成31年4月19日まで)

##### (2) 小河内ダムの貯水状況

4月19日7時現在の貯水量は、1億3,780万 $m^3$ となっています。(図-15参照)

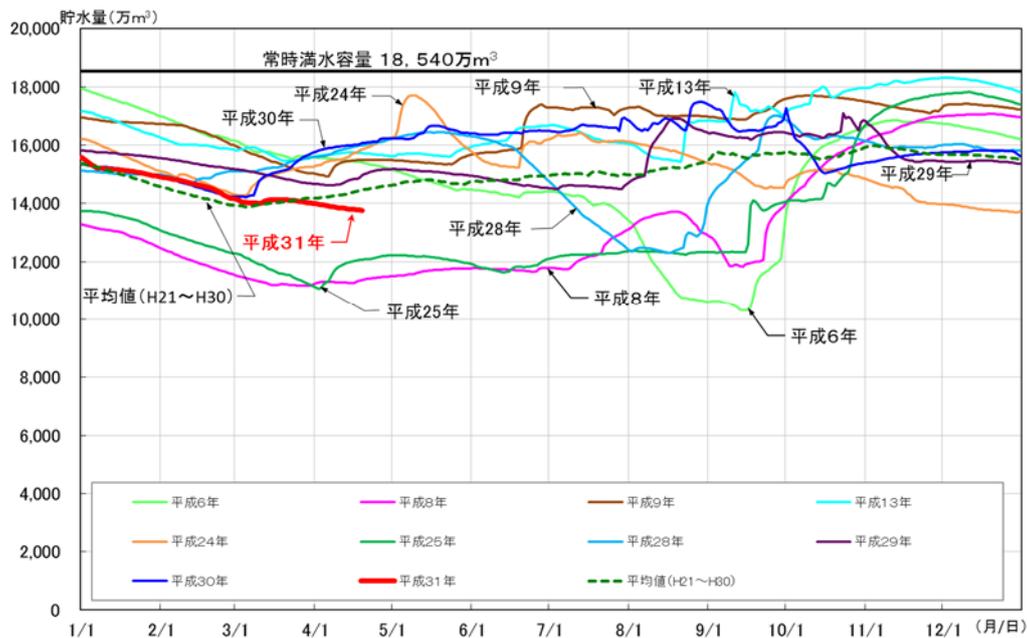


図-15 多摩川小河内ダム貯水容量図 (平成31年4月19日7時現在)

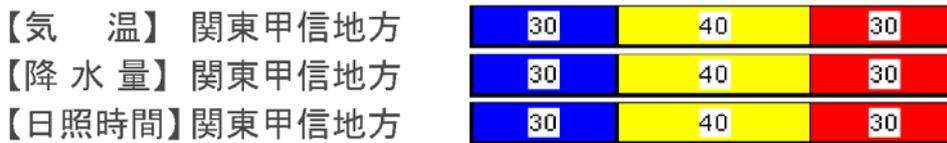
## 2. 今後の見通し

### (1) 気象予報

平成31年4月11日気象庁発表の関東甲信地方の1か月予報(4月13日から5月12日までの天候見通し)によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多く、向こう1ヶ月の降水量は「平年並」の確率が40%となっています。また、3月25日気象庁発表の3か月予報(4月から6月までの天候見通し)によると、4月の天気は数日の周期で変わり、平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「平年並」または「多い」確率が40%となっています。5月の天気は数日の周期で変わり、降水量は「多い」の確率が40%となっており、6月は平年に比べ曇りや雨の日が少なく、降水量は「少ない」または「平年並」確率がともに40%となっています。

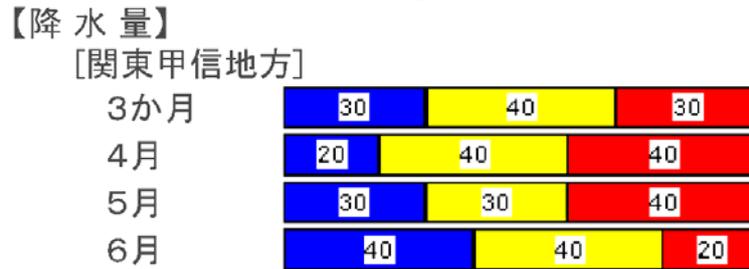
なお、2月25日気象庁発表の暖候期予報(6月から8月までの天候の見通し)によると、6月から7月は平年と同様に曇りや雨の日が多く、その後は平年に比べ晴れの日が少なく、降水量は「多い」確率が40%となっています。

#### 1か月予報(平成31年4月11日発表)



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 3か月予報(平成31年3月25日発表)



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

#### 暖候期予報(平成31年2月23日発表)

〈夏(6月~8月)の気温、降水量の各階級の確率(%)〉



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

